

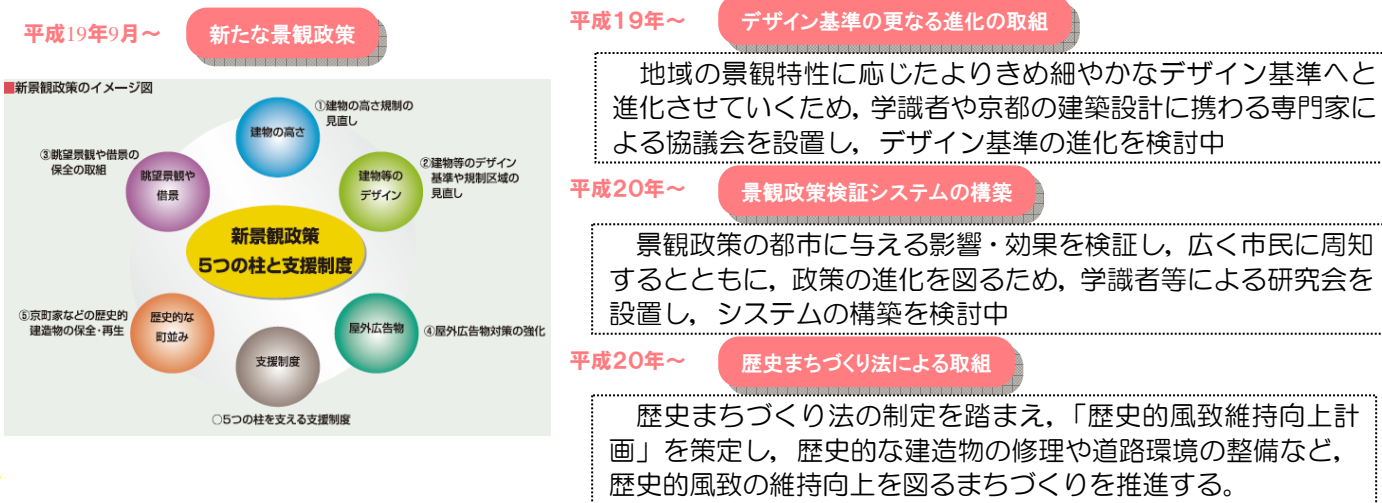
京都市基本構想における関連記述

景観

永い歴史に支えられた自然的風土である三方の山々，文化財や史跡の点在する山麓ろく部，そしてゆとりと景観に恵まれた住宅地の一帯は，自然と歴史的な景観の保全に努める。伝統的な町家や町並みが数多く維持され，商業・業務機能が集積し，職・住・文・遊が織り重なる歴史豊かな市街地は，調和を基調とする都心の再生に努める。そして南部は，高度集積地区を中心に，21世紀の京都の新たな活力を担う創造のまちづくりに努める。

これまでの主な取組

- ・昭和5年の風致地区の指定を始め，美観地区の指定や町並み保全の取組など，これまでから様々な景観施策を展開。
- ・50年後，100年後も光り輝く京都であり続けるため，平成19年9月に「新景観政策」を実施。また，その検証システムの構築や政策の進化に向け検討中。
- ・歴史まちづくり法の活用を開始。（平成21年11月～）



論点1 現状と課題

- ◇ 活かすべきチャンス(追い風)は？ 放置できない問題(向かい風)は？
- ◇ 活用できる資源(強み)は？ 克服すべきこと(課題)は？

外部環境分析（施策を推進するうえで，追い風又は向かい風となる変化や社会的な状況）	
追い風	向かい風
<ul style="list-style-type: none"> ○国の景観政策の本格化<33P> ○京町家の保全・活用に関する市民や事業者の関心の高まりと市民的活動の活性化<34P,35P> ○市民による景観まちづくりの機運の高まり<36P> 	<ul style="list-style-type: none"> ○京町家の消失と空き家の増加<37P> ○景観上重要な要素となっている大規模な邸宅や庭園の消失の危機<38P> ○京町家等の活用に対する建築基準法等の障壁<39P> ○三方の山々の景観の変容<40P> ○無電柱化等には，地元の合意形成及び電線管理者との共汗が必要不可欠<41P>
京都の現況分析（他都市等と比較して，京都の現況が優位又は劣位である事項）	
京都の強み	京都が解決・克服すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> ○1200年の歴史・文化の積層 ○景観の保全・再生に対する高い市民意識<42P,43P> ○京町家や社寺など木造の歴史的建造物の膨大な集積<44P> ○全国をリードする景観政策<45P,46P> ○市街地における緑化の推進<47P> 	<ul style="list-style-type: none"> ○事業の推進における財政上の限界<48P> ○高齢化や地域経済の低迷等による歴史的建造物の担い手（所有者，職人等）の減少

論点2 政策の基本方向

◇ 今後10年間の基本的考え，価値観は？

これまでの動き

<現在の方向性>

- 1 時を超え光り輝く京都の景観づくりの推進
 - (1) 「盆地景」を基本に，三山の森林景観の保全・再生や緑景・水景等の自然的景観の連なりを基調とし，自然と共生する景観形成
 - (2) 歴史的景観の保全・再生とともに，創造的視点を加え，伝統文化の継承と新たな創造との調和基調とする景観形成
 - (3) 日常の暮らしや生業から醸し出される「京都らしさ」を活かした個性ある多様な空間から構成される景観形成
 - (4) 京都の価値を高め，都市の活力を生み出す景観形成
- 2 市民等の自発的な活動や協働による良好な景観形成の推進
- 3 歴史まちづくりの推進など，各種政策の連携を図り総合的な景観形成の推進
- 4 歴史的景観や緑の文化を未来へ引き継ぐ等，新たな「緑の基本計画」を策定中
- 5 安全で快適な歩行空間の確保，都市災害の防止及び都市景観の向上を図る，新たな「無電柱化推進計画」を策定中

<政策を進めるうえでの悩み>

- (主な課題)
- ・三方の山々の植生の変化
 - ・京町家の空き家の増加と消失
 - ・無電柱化等には，地元の合意形成及び電線管理者との共汗が必要不可欠 (政策上の悩み)
 - ・財政上，法制度上の制約がある。
 - ・歴史的建造物等の担い手の減少。

<関連データ>

- ・松くい虫被害の拡大や松からシイノキへの植生の変化など
- ・過去の町家調査の結果，都心部では京町家が年間2%の割合で減少
- ・無電柱化等を毎年2～3km進めており，平成20年度末には約53kmが整備済である

論点3 市民と行政の役割分担と共汗

◇ 政策の推進に当たって市民や行政が行うべきことは？

論点4 10年後に目指すべき姿

◇ 10年後のあるべき姿やそれが達成された状態を測る指標・目標値は？